

『ヤナ』で魚とりにチャレンジ

ヤナ漁とは...

ヤナ（地方によって、その呼び名や作り違いがある）という道具を使って、川上から追い込んだ魚や、流れてきたりする魚を取る方法だ。5~2cm位の魚を取ることができる。ここで紹介するヤナは、ラッパのような形をしており、浅瀬が続く少し川幅の狭い場所で魚を取るのに適している。

準備するもの

長さ約70cm、直径約10cmの孟宗竹（もうそうちく）・錐（きり）・針金・鉋（なた）・1mぐらいの番線（針金の太いもの）

作り方

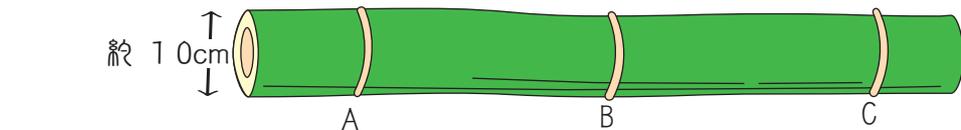
1
いち



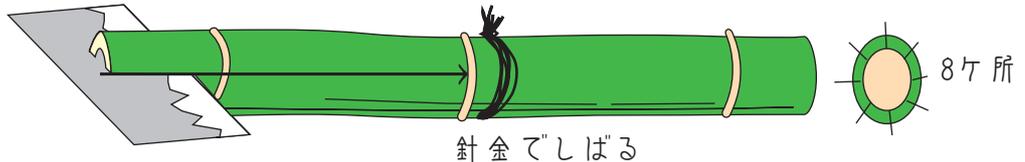
長さ70cm、直径10cmの孟宗竹を用意しよう。下の図のように、節が三カ所残るように切る。AとBの節は、くり貫く。Cの節には、入ってきた水を逃すための穴を錐（きり）であける。

約70cm

2
に



真ん中の節（B）の下を針金でしばり、片方の節から鉋（なた）でBまで切り込む。（8カ所）



3
さん

1mぐらいの番線で直径25cm~30cmの輪を作る。それを、Aの内側に入れて、竹一本ずつと番線を針金でくくりながら固定していくと『ヤナ』の出来上がり。

ヤナ漁の仕方



石などを積み、川の水を「Vの字型」にせき止め、その真ん中にヤナを置こう。しばらくして、川上から水に入り、ジャブジャブと音をたてながら魚を追い込んでいく。きっと、BからCの筒の中になくさんの魚が入っているぞ。

